柞乃杜

秩父神社社報
柞乃杜（ははそのもり）
第　73　号
令和8年7月20日
（川　瀬　祭）

香淳皇后御歌

秩父のはや
屋久島の鯛
長良の鮎
北海の鮭を
魚がきけるかな

御旅所斎館建設の意義について

秩父神社宮司　薗田　建

御旅所斎館の必要性を閃いたのは平成二十六年の例大祭御神幸の折、ちょうど当社御鎮座二千百年奉祝の年だったように思う。

この年は氏子のボルテージが異常に盛り上がって、本来の例祭なら遅くとも午前三時には神社で還御（御祭神がお神輿からご本殿にお帰りになる神事）しているところではあるが、二時間近く押した長時間に渡る御神幸祭であった。還御が早朝五時近くを迎え、装束の一部に霜が降りていたのを覚えている。

ご承知のとおり、この御神幸祭は十二月三日夕方に神社を出御する。御神輿と御神馬に供奉をしながら御旅所に向かい、六基の山車が大輪の煙火轟音に後押しされながら団子坂を登る。御旅所斎場前で扇形に勢揃いすると、（ご祭神に豊穣の感謝を捧げ水の神である大蛇を武甲山に送り届ける）深夜の祭典（夜祭）が斎行される。伝統技術を駆使した木造構造体の山車は二十トンを超え、さらに四十人近い人間が乗り、一町会に五百人から関わって街中を曳行する。それゆえ各町会の連携が重要で、ほんの少しのズレや遅れがそのまま後の祭典開始の時間に大いに作用するのも無理はない。それでも最近はそれほど時間のズレがなくなってほぼ予定通りとなってきた事は各町会の結束と連携が進化していると言う事であろう。我が国稀に見る豪壮な祭りは氏子の強力な信仰に支えられていると同時に大変繊細な祭礼なのである。

重ねるが、御旅所において奉仕する神職の控えの場がどうにかならないかと考えるようになったのはちょうどこの頃であった。

十二月一日から六日間に及ぶ例祭の中で、一年に一度とはいえ秩父地方で一番大事な祭典において、御旅所における祭祀の厳修と祭員達（神職）への対応が未熟であった事は、改めなければなるまい。何より、御旅所斎場は記念事業を以て大変立派な基壇になり、深夜の厳粛な祭典をカタチ作るに至ったが、それに伴う社務所や奉仕する人間の待機場所や潔斎所が臨時テントでは斎場として相応しくない。気づいてみればこれは大きな問題で、全国の様々な祭事などを観ても、神職が待機する場所がままならないなどと言う事はあまりないし、これでは話にならない。祭祀は最も崇高であり、神聖なものなのである。

そこで今までの経験則を踏まえ、この地域における例祭の重要性を顧みて十数年、練りに練って書いては消して設計してきた。

秩父の風土に相応しい「設え（しつら）」とはなんなのか・・・

たった一日だけ注目される場所ではなく、一年を通して秩父の祭りは勿論の事、地域の信仰（寺社仏閣札所）や風土また御旅所斎場の重要性を伝えるには最も適した場所として無限の可能性が秘められており、観念として点や線だけではなく一年を通してどうあるべきかという時間軸が必要なのだ。

石場建て工法

地面に自然石を置き、石の面にあわせ直接柱を削り合わせる高い技術を要する伝統工法

廉潔で清貧性のある引き算の美学とでも言いましょうか。古来よりの伝統的な日本家屋の工法を用いて御旅所にふさわしい景観を造成したい。詳しくは後述の荒木社寺の論考をご覧くだされればご理解いただけるかと思う。

御旅所斎館新築工事について

有限会社　荒木社寺設計

御旅所斎館新築工事の立案に際し、令和六年に宮司様から頂いたラフの平面を参考に設計図を起こした。現在までの工事の経緯としては、令和七年四月に工事契約を締結し、材料の手配を開始した。西川材の杉、桧を中心に買い付けを行い、製材後は弊社にて自然乾燥させた。

令和八年二月二十一日に地鎮祭を斎行していただき、その後、設計細部を詰めながら、確認申請を進め、同年四月に確認済証が発行された。

建設予定地は秩父市指定史跡【秩父神社大祭御旅所】に該当し、且つ秩父市埋蔵文化財包蔵地に隣接しているため、同年三月に試掘調査を実施した。結果、遺構、遺物は検出されなかったため、基礎工事を開始した。七月に建て方を予定し、令和八年の秩父夜祭での使用開始を目指して工事を進めている。

建物仕様は木造平屋建て、基礎はベタ基礎（一部石場建て）、屋根はガルバリウム鋼板葺き、外壁は塗り壁（一部下見板張りとし）建具は木製建具とした。

華美な装飾等は設けず、簡素な設えとしながらも、材の質感を生かした伝統的な木造建築の意匠を備えた建物としている。建物の機能的な役割と御旅所の景色、雰囲気がより良いものとなるよう配慮しながら設計に臨んだ。

主な用途は、夜祭の際の神職待機場が主であり、六畳二間の板の間を中心とした平面構成となっている。大屋根は切妻屋根で南・東側に下屋を設けた。軒の出は三尺程度とし、夏の日差しと雨を遮りながら冬には日差しを取り込む、伝統的な日本家屋の知恵を活かした計画としている。

ほとんどが化粧材となるため材木の木目や使い方にも注意を払い、弊社大工により手刻みにて加工をする。構造は在来工法を基本としつつ、小屋組みには柱上に桁・梁を順に重ねる折置き組みを採用した。折置き組みは古くから社寺建築に用いられてきた伝統的な架構形式であり、本建物は日本の伝統的な間取りに近く、建物内部が建具で仕切られる平面構成になっている為、構造補強として差し鴨居と折置き組みを組み合わせた架構を採用している。

以上が建物および工事の概要になります。秩父夜祭を未来に紡いでいく一端を担えることに感謝申し申し上げるとともに、地域の歴史と伝統に寄り添う建物となるよう、誠心誠意工事を進めてまいりたいと思います。

解説　秩父神社(71)

杉山正司

◆続・秩父神社を巡る刀剣(五)

秩父神社を巡る刀剣について、正続あわせて十二回連載をしてきた。最後に国宝と御物の二口の刀剣について、これまで紙数の都合で触れることができなかった、秩父神社からの流転について見ていこう。

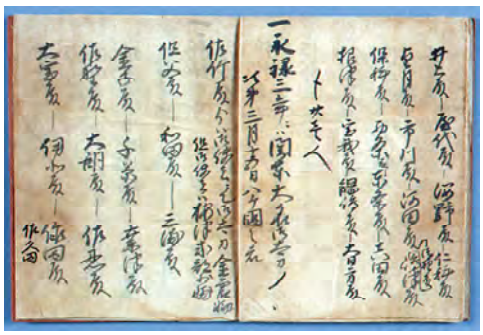
国宝短刀　銘備州長船住景光
埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵
刀身彫刻
表　秩父大菩薩
裏　梵字［大威徳明王］

嘉禎元年(一二三五)秩父神社が、落雷により焼失。社殿の再建に際し、神社北東の妙見宮に祀られていた妙見菩薩(明治の神仏分離により「天之御中主神(あめのみなかぬしのかみ)」に改められる)が合祀された。正和三年(一三一四)に本殿落成したが、この時、拝殿は未完であった。このように数十年を経過しても社殿は完成を見なかった時期であった。この一連の造営の中心となったのが、丹党中村氏であった。

一方、故郷秩父を離れて、播磨国宍粟郡三方西(兵庫県宍粟市)に移住した丹党中村氏の一族大河原氏も、新たな領地で短刀を作刀させて、復興の途次である本願地の氏神へ奉納したのであろう。

永禄三年(一五六〇)三月一五日、鎌倉の鶴岡八幡宮における上杉謙信の関東管領祝儀に、関東八か国の大名衆が太刀を贈る記事が注目される。

一　**永禄三年ニ八関東大名御太刀ノ次第、三月十五日八ヶ国之衆**
（中略）
秩父殿ー和田殿ー三浦殿
（以下略）（「越後平定以下祝儀太刀次第写」（国宝　上杉家文書／第九六三号文書））



「越後平定以下祝儀太刀次第写」
（国宝 上杉家文書　米沢市立上杉博物館蔵）

参列し刀剣を献上した大名の名に「秩父殿」が見える。

この秩父殿は、在地の国衆で、これ以前の天文期に鉢形の藤田氏の抗争に敗れ小田原北条氏を頼って伊豆に下ったという。この時期でも、依然として秩父地域にある程度の勢力を有していたか、あるいは庶流が残っており、いずれかが神社から持ち出したのだろう。

謙信の手に渡った短刀には、謙信好みの小サ刀拵が作られた。春日山城内毘沙門堂への参拝時には、謙信の差料とされたという。

戦後上杉家を離れ、愛刀家のもとを経て、平成五年(一九九三)埼玉県立博物館で購入し、故郷の埼玉の地に再び帰ってきた。

御物太刀　景光・景政
刀身彫刻
表　秩父太菩薩
裏　梵字［毘沙門天］

御物太刀も、国宝短刀とともに秩父神社社宝として伝来した。しかし、いつの頃か、流失してしまった。時期は永禄三年以前であることは疑う余地はない。何故なら、謙信が好む備前刀という理由以上に、刀身彫刻が重要である。刻まれた梵字は、バイ【毘沙門天】。謙信が信仰する毘沙門天を表す梵字なのである。

当然、神社にあれば、短刀以上に謙信が欲する刀であり、秩父殿としても覚えめでたく名を知られることになり、献上したであろう。そうしなかった、否、そうできなかったのは、既に神社に無かったからであろう。

その後の伝来は不明であるが、明治二四年(一八九一)四月十日、突然歴史に現れる。明治天皇が、枢密顧問官・海軍卿の川村純義伯爵邸に行幸され、この時に太刀は献上されて、明治天皇御料となる。

ちなみに川村純義は、のち迪宮(のちの昭和天皇)と淳宮(のちの秩父宮雍仁親王)の養育掛となり、川村が亡くなるまで務めている。川村を通して、秩父宮ー太刀ー秩父神社の不思議な縁を感じる。

この二口に加えて、広峯神社に大河原時基によって奉納された国宝太刀(景光・景政作)(埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵)の三兄弟の刀と脇差(勝光・宗光作)は、平成八年(一九九六)四月、埼玉県立博物館における、特別展「美の匠たち～日本刀をめぐるわざの世界～」で、悠久の時空を超えて初めて顔を合わせることができた。

（元埼玉県立文書館館長）

稽古照今

戦後八〇年、令和の現在、後世に伝えるべく昭和・平成を振り返ります。第一回は、平成二年に発足しました当社氏子青年会から創立メンバーでもある第三代会長 鈴木建志さまにご寄稿戴きました。

◆秩父神社氏子青年会と私

秩父神社氏子青年会
第三代会長　鈴　木　建　志

平成二年四月十五日、秩父神社氏子青年会が五百二十余名と云う全国的にも多くの会員を擁す組織で発足しました。

神社の呼びかけにより夏・冬の笠鉾・屋台町の青年を中心に十三名ほどで発足に向けて幾度となく会議を重ねてきた事業計画案、予算案、今井奎吾会長以下執行部役員案が承認されました。事業計画は、とにかく新しい会ですので色々な案が出され絞り込むのが大変だったことを思い出します。

発足後は神社漬けの日々で、神社及び祭事の勉強会、境内清掃や武甲山登拝、県内外のお祭り見学や参加で大いに楽しみました。

特に大きな思い出としては、御大典奉祝大提灯パレードに五十名ものメンバー等でバスを仕立て参加し、銀座から皇居前広場まで賑やかに行進したことです。

また、翌年二月には過激派に備えて立太子礼夜間警備を神社及び周辺を各町会会員が中心になって毎晩十名規模で行ったことです。

平成三年十月には尺八の田辺冽山先生の「邦楽の夕べ」と題して奉納十三夜観月コンサート。その後は田辺冽山先生の尺八、お琴の村田章子先生、桜井智永先生に加わって頂きました。

これは御本殿前の特設舞台演出のため竹を蒔田の会員に依頼し、切り出しに皆で行き舞台造りに汗をかきました。入場料も頂いての〝大興行〟でチケットは、勿論予定数を完売いたしました。このコンサートは大盛況で数回に渡り開催し、のちの三遊亭栄楽師匠の落語会に引き継がれます。

「お宮と親子の集い」にも全面的に協力し子供たちと楽しく遊びました。さらに忘れてはならないのが伊勢式年遷宮のお白石持ち行事に奉仕が出来たことです。揃いの半纏に鉢巻を締め、川を渡り神宮まで運んだのです。

また、東京や京都をはじめ会津などの地方都市で開催された氏子青年協議会全国大会に多くの会員諸兄と楽しく参加したことも大きな思い出の一つです。

末筆になりますが、秩父神社の弥栄と氏子青年会の益々のご隆盛をお祈り申し上げ筆をおきます。

【表紙歌解説】

香淳皇后御歌

秩父のはや屋久島の鯛長良の鮎
北海の鮭をえがきけるかな

（昭和四十二年歌会始　御題　魚）

この御歌は、昭和四十二年の歌会始にてお詠みになられた御歌です。この年には埼玉県で開催された第二十二回国民体育大会で秩父市が柔道・弓道・山岳の競技会場となった際、十月二十五日には畏れ多くも昭和天皇・香淳皇后両陛下には当地に行幸啓あそばされました。

就任挨拶

氏子青年会会長　町田博寿

令和八年度総会におきまして、第十六代会長に就任致しました熊木町の町田博寿です。平素は、秩父神社氏子青年会の諸活動に、多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。私は会長の任期中に、「郷土を愛する心」「自分の住んでいる地域の歴史・文化・伝統を理解し子供たちに伝承する」このような会員が一人でも多く増えるように活動をしていきたいと思います。

昨年は、全国植樹祭が埼玉県で六十六年ぶりに開催され、天皇陛下におかせられましては秩父に行幸あそばされ、大勢の会員が各々の町内で奉祝の活動をさせて頂きました。

結びに、本会顧問の薗田宮司様をはじめ、神社職員の皆様方、賛助会の皆様方のご指導を賜り、本会がより一層発展出来る様、会員一同精進致す所存です。最後に、関根前会長の功績に感謝を申し上げまして、会長就任の挨拶とさせて頂きます。

退任挨拶

氏子青年会前会長　関根大介

令和八年度総会におきまして、第十五代会長職を退任することになりました。

在任中は会員の皆様と一致団結し、各種事業を遂行することが出来ました事、感謝申し上げます。

また顧問、薗田宮司様をはじめ、神社職員、奉賛会、賛助会の皆様方よりのご指導ご鞭撻を賜りました事、重ねて感謝申し上げます。

中村前会長から受け継いだ、埼玉県内の氏子青年会の絆を更に深められ、そして薗田宮司様のお取り計らいで、貴重な経験をさせて頂き、充実した二年間を過ごすことが出来ました。

結びに、町田新会長のもと、会員皆様と絆を深め、氏子青年会が更なる発展、秩父神社様の益々のご隆昌をご祈念申し上げまして、会長退任の挨拶とさせて頂きます。

◆氏子青年会役員名簿

顧問　名誉総代・大総代　薗田建（宮司）
原嶋清（上町）
山本修（上宮地）
吉田恵一（中村）
井深昭（熊木）
大島隆芳（本町）
中村文治（東町）

相談役　大総代　新井君美（禰宜）
新井豪（中町）
栗龍馬（上町）
塚越亮一（本町）
清野和彦（熊木）
関根大介（中町）
関根博寿（熊木）
町田洋旦（上町）
高野淳（道生）
木暮仁（上宮地）

賛助会会長　魚津拓斗（上町）
直前会長　赤坂元規（熊木）
会長　中村文治（東町）
副会長　新井豪（中町）
栗龍馬（上町）
塚越亮一（本町）
清野和彦（熊木）
関根大介（中町）
関根博寿（熊木）
町田洋旦（上町）
高野淳（道生）
木暮仁（上宮地）

幹事長　赤坂元規（熊木）
副幹事長　魚津拓斗（上町）
池田直哉（道生）
熊崎一仁（番場）
長谷川元洋（本町）
阿佐美昌士（本町）
増田慎（宮側）
他九名

事業部長　池田直哉（道生）
副事業部長　熊崎一仁（番場）
長谷川元洋（本町）
阿佐美昌士（本町）
増田慎（宮側）
他九名

総務部長　飯塚貴幸（中町）
副総務部長　原島達昭（宮側）
他七名

監事　宮田和裕（権禰宜）
枝窪邦誉（権禰宜）
黒澤守（本町）
市川幸司（中町）
能見史高（本町）

常任幹事　七十七名

梟（ふくろう）だより

◆退任挨拶

禰宜　大澤孝

此度、令和八年三月末日付を以ちまして、秩父神社を定年退職致しました。

在職中は公私共に格別のご厚情を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

顧みませば、昭和五十八年四月に御神縁を戴き奉職が叶いまして以来、実に四十三年間の長きに亘り、秩父総社の大神様にご奉仕出来ましたことは、身に余る光栄と存じ深く感謝致しております。

先々代の薗田武男宮司様に始まり、先代の稔宮司様、現建宮司様と三代の宮司様方にお仕えし、神社関係者を始め氏子崇敬者皆様方の温かい御指導と御鞭撻により今日まで支えて戴きました。

申す迄も無く、粗野にて浅学菲才のこの身でございますので、皆様方に多大なるご迷惑やご無礼をお掛け致した事と存じ恐縮しております。この場をお借りして謹んでお詫びを申し上げます。

数々の思い出や経験を得た中でも、令和二年禰宜職を拝命した後の、コ

ロナ禍での神事祭礼の斎行に大変苦慮した事や、全国植樹祭の天皇陛下行幸に際し、陛下を神社にお迎え出来ました事は、生涯忘れ得ぬ貴重な経験と成りました。

今後は、嘱託の禰宜として、日数は多少減りますが、引き続きご奉仕させて戴きますので、何卒宜しくお願い致します。

結びに、秩父神社の愈々の弥栄と、皆様方のご多幸をご祈念申し上げ、退任の挨拶に代えさせて戴きます。

◆就任挨拶

禰宜　新井君美

此の四月一日付を以ちまして、秩父神社禰宜を拝命致しました。

素より浅学菲才の身ではありますが、嘱託とならせました大澤孝禰宜と力を合わせて、職責を全うすべく精進して参ります。

顧みますと、昭和六十二年四月にご神縁を戴いて奉職の後、平成八年より神社本庁へ出向し、貴重な経験をさせて戴きました。復職後は先代宮司に倣い、國學院大學の兼任講師として神職養成にも久しく関わって参りました。

私ども神職にとって、神社を中心とした古き良き祭礼文化を、次代に正しく継承することこそ使命であると考えます。定年まで残り僅かな期間となりますが、お心を寄せて戴ける皆様方と心を合わせつつ、微力ながら自身の務めを果たして参りたく思います。

ご関係皆々様には、今後ともご厚誼を賜りますようお願い申し上げ、就任のご挨拶に代えさせて戴きます。

◆退職挨拶

権禰宜　吉田有臣

この度、令和八年三月三十一日をもって退職いたしました。令和五年よりの三年間という大変短い期間でしたが、神明奉仕に勤められてきたことは、薗田宮司様を始め神社職員の方々、多くの神社関係者、氏子崇敬者の皆様の公私にわたる厳しくも温かいご指導、ご鞭撻を賜り心より厚く御礼申し上げます。

こちらで学んだ貴重な経験を活かし、四月より滋賀県に鎮座いたします多賀大社に転任となり新たな気持ちで大神様にお仕えいたします。

これより先も、実家である調神社の神職としての将来を見据えて日々研鑽し、これからの神社界の発展のために精進し、人生を歩みたく思っております。

最後に秩父神社の神様の御加護の下、氏子崇敬者の皆様のご健康とご多幸、又秩父地域の益々のご発展を心よりお祈り申し上げまして、退職のご挨拶とさせて頂きます。

◆新人紹介

神務実習生　笠原悠羽

平成十八年一月二十日生。秩父市道生町出身。大社國學館本科卒業。

この三月に二年間におよぶ神職養成学校を卒業し、四月より神職見習いを拝命致しました。神職としての第一歩をこのような尊い御神縁のもとで踏み出せますことを、深く感謝するとともに、身の引き締まる思いでいっぱいでございます。

今の私は神職としての基礎という小さな芽を出したばかりの極めて未熟な存在であり、日々の社務や伝統あるこちらの作法、地域の方々との関わりなど、一から学ばせていただいております。どのように小さな社務であっても神聖な奉仕であるという自覚を持ち、先輩方の背中を追いかけながら、一日でも早く皆様のお役に立てるよう、正確に社務を身につけるべく人一倍の努力を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

巫女見習　本橋マリア

平成十九年十二月十五日生まれ。秩父郡横瀬町出身。秩父農工科学高等学校卒業。

この度ご神縁を頂きまして四月より巫女見習いとして奉職させていただくことになりました。

まだ不慣れで至らない点も多くあると思いますが、先輩方のご指導のもと、日々精進してまいりたいと思います。参拝される皆様に心地よく過ごしていただけるよう、笑顔と感謝の気持ちを大切に努めてまいります。自然豊かで歴史ある秩父神社でご奉仕できることを嬉しく思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◆柞乃杜神前結婚式報告

東京都江東区　ベイリス・ジェラリー・ポール　・志保様

埼玉県鴻巣市　鈴木泰弘・知子様
秩父市大野原　黒沢拓己・瞳様
神奈川県平塚市　大野達彦・雅子様
東京都練馬区　西野昂明・彩様
群馬県太田市　松村武晴・祐貴子様
栃木県下野市　大橋龍二・美来様

末永く幸せな御家庭をお築き戴きますようお祈り致します。

就任挨拶

一般社団法人秩父宮会会長　井上　靖

平素は当会発展のために格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、五月三日斎行の秩父宮御霊祭に引き続き開催されました、令和八年度当会定時総会におきまして理事および監事が改選され、その後の理事会において代表理事（会長）および業務執行理事が選出されました。私儀、この度、秩父宮会会長という大役に図らずも就任いたすこととなり身が引き締まる思いでございます。誠に微力ではございますが当会発展のために力の限り努力をいたす所存でございます。

宮前洋一前会長におかれましては、在任期間中多くの斬新な提案と実践をなされましたが、当会貢献への意欲は健在です。今後は顧問にご就任いただき、当会会員と秩父郡市民のため一緒に努力して参る所存でございますので、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

退任挨拶

一般社団法人秩父宮会前会長　宮前　洋一

前任の薗田　稔氏の急逝により残任期間を代表理事（会長）として務めさせていただきました。当初より高齢の身で、心身ともに充実していないと自覚しておりましたので、早期の交代をお願いしてきましたが、此の度五月三日の定時社員総会をもって退任をいたす事となりました。

一年ちょっとの期間ではありましたが、在任中は皆様方のご支援、ご協力により得難い経験をさせていただきました。厚くお礼を申し上げます。

後任には斯界の重鎮である井上　靖氏が就任致します。最適者にバトンタッチが出来て安堵している次第です。

新会長を中心に皇室に縁ある貴重な団体として、地域の中で情報を発信しながらますます存在価値を高めて発展していく様ご祈念申し上げます。

◆秩父神社妙見講

自　令和　八年　二月
至　令和　八年　七月

二月二十二日　坂戸妙見講　小川直志講元外五十名
四月六日　宮側講　久下正司講元外四十五名
五月五日　原谷講　堀口森延講元外三百四十九名
五月二十八日　近戸講　山口忠次講元外九十一名
六月七日　中宮地講　齋藤眞一講元外百三十八名
六月八日　熊木講　田代勝三講元外百二十二名
六月二十日　日野田講　山本和雄講元外百二十四名
六月二十日　本町講　小川裕司講元外百五名
六月二十一日　下宮地講　根岸普一講元外六十六名
六月二十一日　別所講　井上哲雄講元外六十名
六月二十八日　下郷講　江原謙一講元外二百七十六名

◆職員辞令

権禰宜　吉田　有臣　願いにより職を免ず
巫女　笠原　美涼　願いにより職を免ず
（三月三十一日付）

権禰宜　新井　君美　禰宜を命ず
笠原　悠羽　神務実習生を命ず
本橋マリア　巫女見習を命ず
（四月一日付）

編集後記

■今年もまた子供たちの祭り、夏の川瀬祭を迎え、ここに社報「柞乃杜」第七十三号をお届けいたします。今回の表紙写真は、上町にお住まいの稲葉広和様よりご提供賜りました。

■今年は十二年に一度となる秩父札所午年総開帳に当たります。当社でも札所巡りの方々のお詣りが多く見受けられるようになりました。

この総開帳始まりにあたり開白法要が、三月一日当社にて行われました。当日は御本殿にて秩父令和観音菩薩開帳や表白文奉読が、秩父札所連合会柴原会長以下会員により執行されました。かつて神仏習合の時代、行われていたであろう当社拝殿での読経の声が百五十年の時を超えて甦った瞬間となりました。

※本報の用紙は再生マット紙を使用しています。

令和八年（二〇二六）七月二〇日
発行編集　秩父神社社務所
〒三六八―〇〇四一　埼玉県秩父市番場町一―三
TEL（〇四九四）二二―〇二六二
FAX（〇四九四）二四―五五九六
印刷所　有限会社　拡文社印刷所
〒三六八―〇〇四二　秩父市東町二七―八